

令和3年度第1回北九州市子ども・子育て会議【会議要旨】

1 開催日時

令和3年8月3日（火） 15:00～16:20

2 開催場所

A I Mビル3階 315会議室

3 出席委員数

※委員定数：15名

13名（中村委員、原田委員欠席）

4 議題

(1) 認定こども園・確認部会委員の改選について

- ・ 北九州市子ども・子育て会議「認定こども園・確認部会」の委員の改選について

(2) 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」の実施状況について

- ・ 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」令和2年度実績について（資料4）
- ・ 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」
（令和2年度「北九州市次世代育成行動計画」点検・評価）（資料5）
- ・ 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」
（北九州市次世代育成行動計画）15の施策の評価結果（資料6）
- ・ 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」
北九州市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度実績）（資料7）

5 会議経過

委員の改選に伴う会長・副会長の選任

錦戸委員からの推薦を受け、近藤委員が会長に就任

近藤会長からの推薦を受け、村上太郎委員が副会長に就任

(1) 認定こども園・確認部会委員の改選について

部会委員案のとおり決定

(2) 「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」の実施状況について

【主な意見等】

（委員）

コロナウイルス感染拡大を防止するため、オンライン化への移行の取り組みはどういう状況か。

⇒（事務局）

母子保健の関係では、母親学級等すでにオンライン化を定着化しているものもある。その他にも、新しく父親、祖父になられる方への育児講座は規模を縮小しつつも、その様子を録画して動画配信して役立てていただいている等取り組んでいます。

子育て支援に関することだけでなく、市役所全体的に手続きや行事、研修等オンライン化に取り組んでいます。

(委員)

母子保健の充実では、北九州市では、産科医との連携で小児科につなげている「ペリネイタルビジット」に取り組んでいる。県全体としても充実させていきたいと考えている。産科と小児科の連携を進めていきたいと思っている。

(委員)

- ・放課後児童クラブの利用希望に対する受入は100%を達成し、クラブに対する満足度も上がって総合評価「A」をいただいている。だが、コロナ禍において、希望者が多く部屋は密集状態で、酸素濃度を測定すると10分もかからず二酸化炭素濃度が上がり警報が鳴っている状況である。窓を開け換気をしているが、猛暑の中、熱中症になる子もいるので、酸素と二酸化炭素の常時入替を行う全熱交換器の取付等も必要と考えており、補助金申請も相談したい。コロナの収束が分からない中、ただ子どもが楽しく満足して生活するだけでなく、安全に生活できること、支援員の精神的な負担もなかなかクリアできないということが実際に有る。
- ・最近小学校に特別支援学級が沢山できたため、そういったお子さんの入会も多くなった。1対1の対応を好まれるお子さんも多く、なかなか対応が難しい。放課後デイサービスを案内したいと言えない苦しい状況にある。アドバイザーの指導だけではなかなかクリアできない諸問題もあり、今後この会議の中でもご検討いただきたい。

⇒ (会長)

評価として「A」評価でも、だからと言って課題がないわけではないという現場の状況のご説明でした。ただ単に支援者だけの自己努力だけではなかなかクリアできないという実態も含め、行政の方でも「A」評価だからいいという判断にならないように検討いただきたい。

(委員)

- ・資料6の1ページ施策(3)の幼稚園・保育所の満足度が前年度より増加していることは、コロナでも開園していただきありがとうございますという声の結果だと思うが、現場はリスクも高かったということ併せてここで伝えたい。ただ、職員はおかげさまで優先接種の枠に入れていただき、おそらく9月初めには全員接種できるのではと思っている。
- ・保幼小連携事業では、コロナで連携会議や合同研修会もできない状態ですが、国でも今、幼児教育と小学校教育の架け橋の検討が行われている。就学前後の垣根が無いようスムーズにということで、北九州は早くから取り組んで保幼小連携に先駆的な都市だったが、若干、この会議にしても研修会にしても、後退とは言わないが、残念な活動かなと思っている。もう一度、国で協議されていることも含めて保幼小連携をさらに強固にしていきたい。
- ・保育園と放課後デイの学習支援を併用するお子さんが増えており、就学後はそのままデイに行く使い方が増えている。私の場合は、必ず園児さんが利用する所には見学に行っただけで利用されたり、安易な使い方をされる方の中にはおられる。そういったことも含めて、そこに行政がどのように関わられているのか、立ち入りや指導についてお聞きしたいところです。
- ・資料6の2ページ施策(5)で「遊び場や公園の満足度は増加」とありますが、資料6の5ページ施策(15)では、小学生アンケートで外出時に危ないと思う中の一つに「公園で遊んでいるとき」とあります。公園や施設等が充実する一方で、子どもたちは怖さを感じることもある。場所は作ったけれども、見守りは難しいかもしれないが、何か対策が必要ではないか。大人目線で充足していることと子ども目線の怖さを感じることを

つなげて考え、線にしていくことが必要と思う。

- ・北九州市の子育て情報誌はとても丁寧に作られています。施設にしても全部 QR コードで分かるようになっていますが、一部、児童発達支援事業や放課後等デイサービスは QR コードは付いているが、検索してもなかなか中身が分からない。ものすごく乱立している。そこには保育士資格を持った方が数人入っているが、少ない保育士たちが色々な所に分散していき、結局本体である幼稚園や保育所の教諭や保育士が充足にならないというのも、どうしてこういうことが起きるのか不思議さを感じている。とても良い情報誌なので、保護者や子育て中の方、他県でもコマーシャルしているが、実際、一つ一つ見ていくと見えない中身もあるので、丁寧なフォローが必要と思う。
- ・色々なことをつなげて考えると、コロナによる人口減少が来年進んでいったときに、資料 7 の受け皿の拡大は、人口減少地域における保育の内容でしっかりと活動していくためには受け皿整備だけでいいのかということも感じた。

⇒（事務局）

- ・保幼小連携は、平成 23 年度に保幼小連携推進連絡協議会を立ち上げている。子どもを取り巻く環境が厳しい中で、小学校への接続というのは非常に重要なことと思っている。連絡協議会を通して、合同研修会の開催や啓発パンフレットの作成、作成した接続カリキュラムの活用促進といった取り組みを行ってきました。ご指摘のように、昨年度はコロナで連携研修会が十分に実施できず 88% の実施率に留まり、今回の評価となりました。今年度については、所定の事業を実施していきたいと思ひますし、コロナ後の社会を見据え、WEB 研修やオンライン会議の活用や、分散化などで工夫しながら、取り組んでいきたいと考えている。
- ・公園関係の部署が不在のため、アンケート結果で感じたこととお話しします。褒めていただいた部分と褒めているからこそ「もう少しここが」という意見が多かったと思ひます。「良い公園があったが、もう少し家の近くにあれば良かった」「遊ばせやすい公園があったが、草が多く草刈りしてほしい」「ごみが多かった」「トイレが怖い」とおむね公園という遊び場は評価していただいているが、もう少し頑張ってくださいと言われていたような感じがしております。公園というのはお子さんや保護者の方にとって大切な居場所だと思ひますので、この居場所づくりについては、市役所の関係部署でこれからもどうやったらもっと良い居場所になるのかということも考えていきたいと思ひます。
- ・「こそだて情報」については、昨年度ほぼ 1 年間かけて作らせていただきました。以前のものに比べサイズも小さくし、文字数を減らして QR コードからネットを案内するかたちを取らせていただきました。おむね好評をいただきまして、これだったら皆さんに配りたいというお声も頂いております。作るときには一つ一つ確認はしているのですが、私どもの目線が足りなかったということも今のご意見であらためて感じました。リニューアルをしていく中で、もう一度自分たちの目線を疑って確認してまいります。

⇒（会長）

おそらくキャッチボールが必要なのでしょう。本当に欲しい人は全く違う角度から欲しいという方もいらっしゃる。それが少人数であれば、なかなか目線が届かないと思ひます。その辺のフィードバックをお願いします。

⇒（事務局）

- ・資料 7 のとおり、令和 2 年度は待機児童が前年度に比べ半減しているところです。これは第 2 次計画のときから施設整備の取り組み、第 3 次計画でも引き続き取り組んだ成果であると同時に、年度初めは前年度に比べ利用希望は増えていたのですが、コロナの緊急事態宣言後、下期からは利用希望が減少傾向となり、年度末では更に下がったという要因も絡んで待機児童が下がってきている状況です。そして、今年度初めは、昨年度よ

りも若干減少したスタートとなりなした。今年4月の利用希望であれば、今年1月くらいまでの申込のため、ちょうど緊急事態宣言の時期と重なり、保護者の方の利用控え心理が働いたのかと考えています。毎月ごとの利用推移を把握しているが、昨年度に比べ各月ごとの水準は低くなってきているが、減少幅は少しずつ縮小傾向である。今年になっての出生の影響も出ているのかとも考えている。そういった待機児童対策に関係してくる主要な要因等に注意しながら、今後の整備のあり方や定員の確保の仕方について考えていきたい。

(委員)

- ・未就学児の代弁者である保育士・幼稚園教諭へのヒアリングのところをもう少し詳細に知りたい。また、それがどこに反映されたか説明いただきたい。
- ・ヤングケアラーを今後どういう風に進めていこうと考えているのか。
- ・学校に行っていない子どもの行き場として支援室等があるが、場所的に遠いとかフリースクール等はお金の問題で行けないとか、引きこもりや不登校というところを解消するには早期の介入が必要と思うが、行けない子どもが集う場等今後何かそういう手立てを考えていただけないか。
- ・中学校3年生の訪問支援をやっていると思うが、中学を卒業した高校生でも可能と聞いている。この拡充をもう少し中1からとか小6からするとかは考えていないのか。引きこもっている子どもさんの様子を見てみると、小学校3年生までの充実が非常に必要かなと感じている。そこは学校の教員なのか支援員なのか分からないが、人的配置の充実を考えているのか。

⇒ (事務局)

- ・ヤングケアラーについては、昨年、国が高校2年生、中学2年生を対象にしたアンケートを行い、今年4月に公表されました。あわせて、プロジェクトチームも立ち上げ、今年5月に報告書がまとめられました。本市では、昨年からは早期に発見する取り組みを関係部局が連携して行うよう、庁内で保健福祉局、教育委員会、子ども家庭局と3局で合同課長会議を設けました。国が示したアセスメントシートを用いて、ケアマネージャー、保育士、障害関係の施設等に、もしヤングケアラーの方がおられたら区役所の子ども・家庭相談コーナーに連絡していただいて、各局連携して支援しようという取り組みを始めたところです。今後、国の報告書によるヤングケアラーの認知度の向上ということで、周知・啓発していくこと、それから、学校教育関係者、保育士、ケアマネージャー等に、ヤングケアラーについて正しい知識を持っていただくためのリーダー研修といったものを、今日「ウエルとばた」でオンライン開催しました。国がガイドライン等を示すような方向性がありますので、それに沿って、市としても前向きに取り組んでいきたい。

⇒ (会長)

- ・時間がないので、残りは黒木委員の方から質問内容を文書で提出いただいてよろしいでしょうか。コロナ禍で会議の時間が制約される中で、皆さんからのご発言、事務局からの回答をいただいております。本日、私も質問したいことがたくさんあったのですが、なかなかこういう状況の中では話せないのかなと思います。
一つだけ、指標全体について少しお話させていただければ、総合判定としては「概ね良い状況とまでは言えない」というのが「C」で、「不十分な状況にある」というのが「D」の判定になるわけです。この「C」と「D」が5項目ほどあったわけですが、実際には「大変良い状況にある」というところにおいても課題はあるし、「不十分な状況にある」という項目もコロナの影響とか中身に関しては非常に多くの課題があるわけです。見えづらくなっている部分の評価がこういう形で切られると出てきますので、その部分をきちんとフォローするのがこういう会議だろうと思ってます。

もう一つ、大学などでもそうですがコロナによって想定していなかった、例えば、海外留学は卒業のため必須だが、できない状況になれば留年するかというところではなく代替え措置を取るわけです。WEBで留学経験させる等色々な形で体験させます。そう考えた場合、この指標も厳密に判断することは重要ですが、判断する幅というのももう一度考えるべきなのかという気がしています。ただ単に回数が減ったというだけでなく、実際に対面的ではできなかったが、こういう情報を流したなど。この会議も前回2月は、書面開催で成立させたわけです。そういうことによってここはクリアするのだという発想が必要ではないかと。その方が実態に即しているし「with コロナ」という新しい状況の中での我々の積極的な取り組みが生まれるのではないかと。AIを使ったり、オンラインで行うというご意見もあり、市の方もそれを反映させるという回答もありました。そういうことを我々は適宜、プランがどういうふうに関実に即するものになるかということとを厳密に考えながら進めていっているわけなのです。

⇒（副会長）

- ・ コロナでできなくなったことというのもたくさんありますが、逆にできるようになったことというのもあるわけです。そのためのソフトの検討、内容の検討も必要ですし、そのソフトを可能にするハードも改めてデザインし直すということが多分大事だと考えています。コロナが落ち着いても続くようなデザインというような、そこに向かっていく視点やスタンスが、これから大事なのではないかと考えています。大学でもリモート授業ができるようになったと思ったら対面に戻せと言われ、でも、リモートでも良い点はあるという、あくまでも選択肢が広がったという考え方で、次につながるデザインというふうを考えていけるのではないかと考えています。そこに向けて市の方向性というものが、ユニバーサルでシンプルで、子どもにとっても大人にとっても楽になるようなデザインになっていくといいなと思います。